

気を付けて、目を覚ましていなさい

司祭 シモン 林 永寅

今日、私たちは教会暦で新しい一年が始まる降臨節を迎えました。

皆さんもよくご存知のように降臨節はイエス様の誕生日であるクリスマスを準備する期間です。けれども、また一方では、再び来られると約束された「主の日」を迎えるための心の準備の期間でもあります。このような信仰的な準備と待ち望む心を表現するため、私たちは毎主日降臨節の蝋燭に火を一つずつ増やしていきます。

ところで、このように降臨節の蝋燭に火を一つずつ増やしていくことだけで、降臨節の準備は十分でしょうか。そうだと思う方はいらっしゃらないと思います。それでは、クリスマスと「主の日」を迎えるために、私たちはどのように準備をしなければならないのでしょうか。

今日ご一緒に読んだ福音書には、イエス様が弟子たちに「主の日」をしっかりと迎えるために「目を覚ましていなさい」とおっしゃったみ言葉が記されています。ところでイエス様はその「目を覚ます」ということをどれほど強調なさったのか、この言葉が4回も繰り返されています。信仰者にとって信仰的な覚醒が何より重要であるからでしょう。

ところでこの「目を覚ましていなさい」というみ言葉は少し漠然とした感じもします。果たしてどうやって生きていくのが目を覚ましていることなのでしょう。この質問に対して様々な答えができると思います。けれども私は、「信仰の根本を意識しながら生きていくことである」と思います。それゆえ私はことに今日この場で聖書日課を通して信仰の根本について、中でも三つのことをご紹介します。

まず一番目は、私たちが何より大事に意識しながら生きなければならないことは、「私たちは神様の創造物である」ということです。今日ご一緒に読んだイザヤ書にはこのように記されています。

「わたしたちは粘土、あなたは陶工、わたしたちは皆、あなたの御手の業。」（イザヤ 64:7）

私たちが神様の創造物であるということは、私たちの存在の根がどこにあるのかを示しています。またこれは、神様のみ手によって創造されたのですから、私たちは聖なる者であるという意味です。そして、私たちは神様のみ手によって創造されたのですから、私たちの人生も神様のみ手に委ねられており、私たちも私たちの人生を神様に任せながら生きなければ

ならないということです。私たちの人生を神様に任せて生きていけば、神様は私たちの人生を守ってくださいます。このような信仰は、今のような状況の中においてはさらに大事なことであると思います。

二番目は、「神様をお父さんとして意識しながら生きていかなければならない」ということです。今日ご一緒に読んだイザヤ書にはこのように記されています。

「主よ、あなたは我らの父。」（イザヤ 67:4）

私たちは主の祈りを唱えるたびに、神様を「私たちの父よ」と呼んでいます。なので、神様を父と呼ぶのは慣れているでしょう。けれども、慣れているからと言って、むしろ「神様を『わたしたちの父よ』と呼ぶのが何を意味するのか」忘れたりもします。私たちが神様を父と呼ぶのは、私たちが神様と共に一つの家族になったという意味です。そして、神様と共に生きる人生のために、いつも神様のみ言葉に頼り、神様に礼拝を捧げながら生きていかなければならないということです。

三番目は、「主は再び来られる」ということです。使徒パウロは、主の再臨を強調するため、「信仰者とは、『主が来られるのをひたすら待ち望む人』である」（2テモ 4:8）と言いました。ある方は、主の再臨を「神様がこの世を裁くため再び来られることである」ということばかり思っています。しかし、主の再臨はそれだけではありません。もっと重要なことは、神の国がこの世に実現されることを意味します。したがって、信仰を持って生きていく人々にとっては、神様のうちにあって真の自由と平和を楽しむことができるという意味です。

信仰の根本のことは、この3つ以外にも様々あるでしょう。けれども教会において伝統的に降臨節で強調されることは、「主は再び来られる」という信仰です。けれども、意外に多くの人々はこのような信仰をないがしろにしています。まさかと思ったり、神様が再び来られると言っても人生に特段の変化があるのだろうかという疑問を持っていたりもします。けれども、私たちはこの信仰を受け継ぎ、聖餐式のたびに「キリストは死に、キリストはよみがえり、キリストは再び来られます」と告白しています。それだけではなく、使徒信経とニケヤ信経を通して、「主は栄光のうちに再び来られます」と告白します。このように「主が再び来られる」という信仰は何より大事なことです。この信仰が恵みの源であり、この信仰の中に私たちの希望があるからです。

今日私たちがご一緒に読んだ福音書には、信仰者が「主の日」を迎えた時のためのイエス様の特別なみ言葉がこのように記されています。

「それは、ちょうど、家を後に旅に出る人が、僕たちに仕事を割り当てて責任を持たせ、門番には目を覚ましているようにと、言いつけておくようなものだ。」（マル 13:34）

このみ言葉を通して、私たち信仰者たちには「しなければならないこと」があるのが分かります。この「しなければならないこと」が、今日ご一緒に読んだ「イザヤ書」にはこのよ

うに記されています。

「喜んで正しいことを行い、あなたの道に従って、あなたを心に留める者」(イザヤ 64:4)

このイザヤ書のみ言葉は、私たちが喜んで正しいことを行いながら、神様に従い、ついには神様をみ心のうちに留める者にならなければならないということを教えてくれます。これを他の言葉で、「キリストとの一致」と言います。これは、私たちが信仰の根本を意識しながら生きていく時、成し遂げられることです。そしてそれができた時こそ、真の自由と平和を得られるという意味です。

もちろん、私たちはこの世で信仰を持たない人たちと共に生きていかなければならないので、このようなイザヤのみ言葉通りに生きていくことはとても難しいことです。「信仰の根本」を完全に意識しながら生きていくことも難しいのです。お祈りを捧げながら「しっかり守っていこう」と誓っても、時の流れとともにその誓いが薄れていくこともあります。けれども、私たちの誓いが薄れてきたら、そのたびごとに念を押すことが大切です。特に降臨節を迎えるこの時が心を新たにす良い機会であるということ覚えてください。

また、「信仰をしっかり守っていこう」という私たちの心が薄れてしまうのは、もしかしたら私たちがこの世の中の暮らしとこの世の中の価値に心を奪われているからかもしれません。そこで使徒パウロはこのように言いました。

「この世の生活でキリストに望みをかけているだけだとすれば、わたしたちはすべての人の中で最も惨めな者です。」(1 コリン 15:19)

信仰者は未来を生きていく人です。聖書が教えてくれている通り、この世のものは心の平和を与えることもできず、救いの道を教えてくれることもありません。ですから、私たちは神様のみ言葉と教えを心に刻んで生きていかなければなりません。今日の福音書の冒頭には、私たちに励ましてくれるイエス様のみ言葉がこのように記されています。

「そのとき、人の子は天使たちを遣わし、地の果てから天の果てまで、彼によって選ばれた人たちを四方から呼び集める。」(マル 13:27)

ここの「呼び集める」というのは、単なる人々を呼び集めるということ以上の意味が込められています。それは、特別な恵みのためのものです。その特別な恵みが、今日ご一緒に読んだイザヤ書にこのように記されています。

「あなたの御業によって、わたしたちはとこしえに救われます。」(イザヤ 64:4b)

私たちが神様を固く信じて生きていく時、神様は私たちを呼び寄せ、救いの道に導いてくださるということです。ですから私たちはこの降臨節の間、信仰の根本についてより深く意識しながら、神様のみ言葉通りに生きていくことを新たに誓いましょう。それが、イエス様が願った「目を覚ました姿で生きていくこと」であり、救いへの道でもあります。そして、私たちが目覚めている姿で生きていけば、神様は私たちに思いもよらない豊かな祝福を与え

てくださるでしょう。

この一週、降臨節を迎え、目覚めている姿で再び来られる主を迎え入れ、神様より豊かな恵みが受けられますように心からお祈りいたします。